


2014年5月22日

こそだて家族研究所 

調査レポート vol.4 「子どもの情報機器の接し方」編

子どもと情報機器の関係について、「不安」を持ちながらも「期待」もあるママたち

- 子どもが情報機器で行っているのは「通話」「無料動画サイト」「インターネットの検索」
- 子どもが情報機器を使うこと：
不安1位は「視力や姿勢など成長への悪影響」、期待1位は「楽しく勉強できる」

2012年10月に設立された「博報堂こそだて家族研究所」は、子どもをもつ家族の消費やライフスタイルについて研究していますが、このたび、こそだて世帯に調査を実施し、子どものスマートフォン等の「デジタル情報機器への接し方」をまとめたレポートを作成いたしました。

今回のレポートは2014年1月17日～30日に実施した調査をまとめたもので、長子年齢12歳までの子供がいるママに、子どものデジタル情報機器の使い方について聞いたものです。

その結果、子どもたちは様々な情報機器を幼少のころから使用しており、使い方も「通話」「無料動画サイトをみる」「ネット検索」など多様でした。

このような子どもと情報機器の関係について「悩みや不安を持っている」ママは半数以上の55.8%である一方、「勉強が楽しくできる」など、「期待」もしている様子が明らかになりました。

情報機器が普及している今日、「情報機器と子どもとのいい付き合い方」について模索しているママたちが多いと言えます。

「こそだて家族研究所」では、今後も、こそだて家族について様々な側面から研究を重ね、企業のマーケティングや社会に対してさまざまな提案をまいります。

- ◆ 調査手法：インターネット調査
- ◆ 対象者：20-40代既婚女性 妊娠中～12歳の同居する子供(長子)が居る方 n=1079名 (長子年齢で割付)
- ◆ 調査エリア：全国
- ◆ 調査時期：2014年1月17日-30日

<調査結果ポイント>

- 子どもにスマートフォンを使わせている家庭は30.1%。大半が親の端末を親の許可する時だけ使用。
子どもが小学生になると、パソコン使用率が高くなる。高学年では8割近くが使用。
- 子どもが情報機器を使ってやっていること：「通話：32.8%」と「無料動画サイトを見る：31.9%」が3割以上。ただし、年齢によって大きな違いも。
- 子どもと情報機器。使い方について悩んだり、不安に思うママは55.8%と半数以上。
- 子どもに情報機器を与えることによる期待は、「楽しく勉強できる」「情報機器を使いこなせるようになる」「知識の幅が広がる」

詳細データ

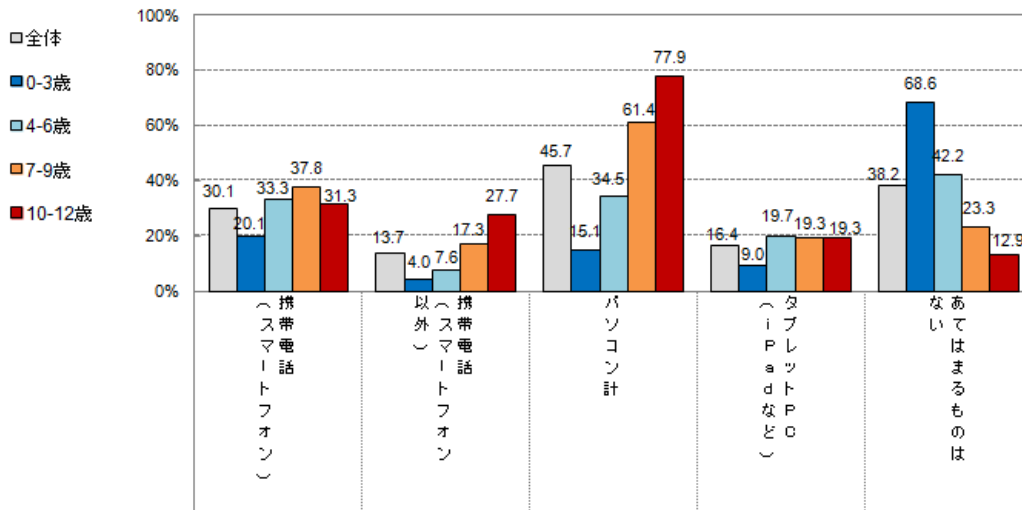
■子どもにスマートフォンを使わせている家庭は30.1%。大半が親の端末を親の許可する時だけ使用。子どもが小学生になると、あがるパソコン利用率。高学年では8割近くが使用。

子ども（長子）に使わせている情報機器について聞いたところ、全体ではスマートフォン30.1%、携帯電話（スマートフォン以外）13.7%、パソコン計45.7%、タブレットPC16.4%という結果でした。

年齢別に内訳を見ると、スマートフォンについては、長子年齢0-3歳で20.1%の子どもが使っており、4-6歳で33.3%と、その他の情報機器と比較して、子どもの年齢が低い時の使用率が高い事がわかりました。

一方で、7歳以上になるとパソコンの使用率が高くなり、7-9歳で61.4%、10-12歳で77.9%となりました。小学校の授業でもパソコンを使うようになってきていることが背景にあると思われます。

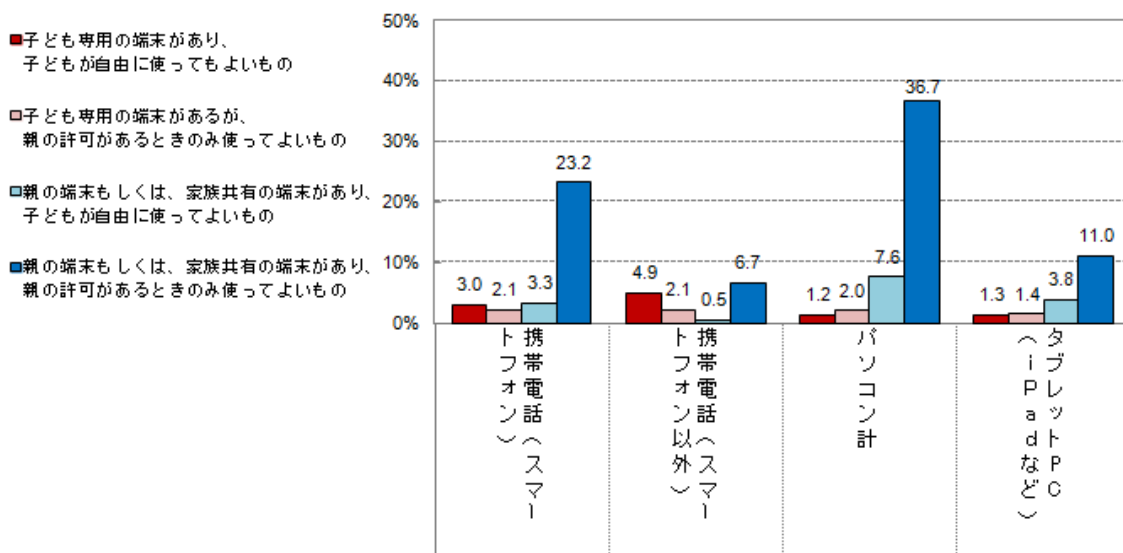
子どもの情報機器の利用状況 (MA) ※



※「子ども専用の端末があり、子どもが自由に使ってよいもの」「子ども専用の端末があるが、親の許可があるときのみ使ってよいもの」「親の端末もしくは、家族共有の端末があり、子どもが自由に使ってよいもの」「親の端末もしくは、家族共有の端末があり、親の許可があるときのみ使ってよいもの」の合計

実際に子ども（長子）にどのように情報機器を使わせているかを見ると、「親の端末もしくは家族共有の端末があり、親の許可があるときのみ使ってよい」としているものが大多数派で、「子ども専用の端末があり、子どもが自由に使ってよいもの」はスマートフォン3.0%、携帯電話（スマートフォン以外）4.9%、PC1.2%、タブレットPC1.3%と、いずれも5%未満の少数派でした。

子どもの情報機器の利用状況 (MA)

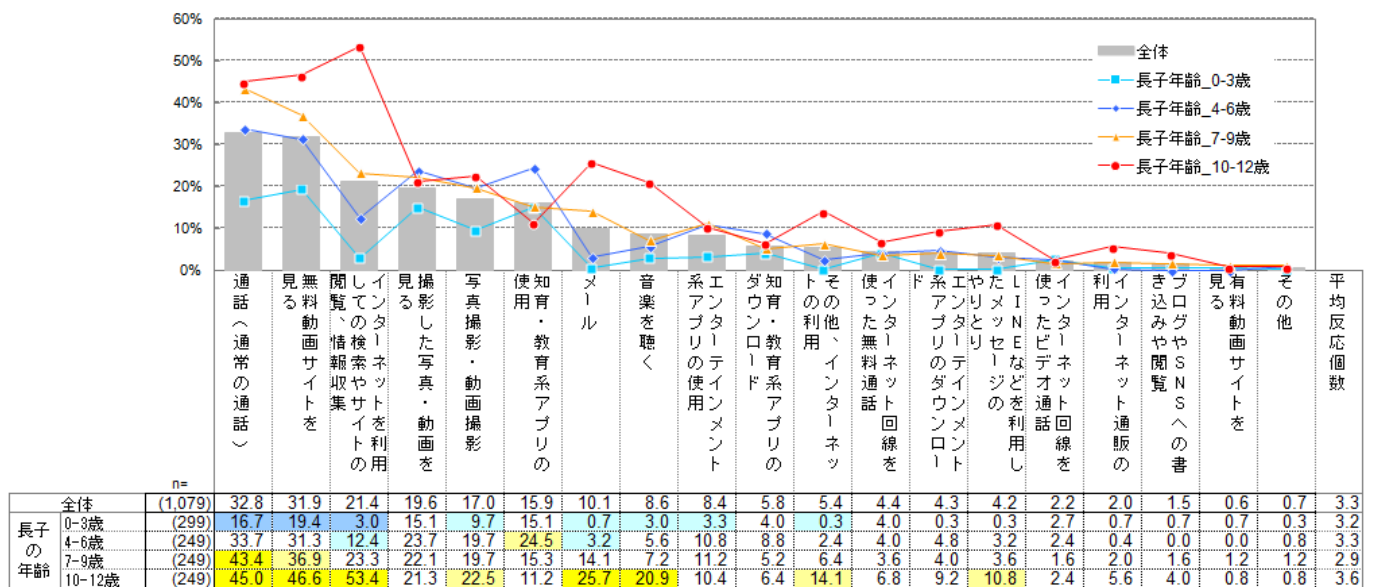


■子どもが情報機器をつかってやっていること：「通話：32.8%」と「無料動画サイトを見る：31.9%」が3割以上。ただし、年齢によって大きな違いも。

子どもが情報機器をどのような事に使っているかを聞いたところ、全体では、1位：通話 32.8%、2位：無料動画 31.9%、3位：ネット検索 21.4%。となりました。

しかしながら、長子年齢によって差が見られ、10-12歳になると、「ネット検索：53.4%」が最も高くなります。また、「無料動画サイト：46.6%」、「メール：25.7%」「音楽を聞く：20.9%」など、10-12歳になると他の年齢では使っていない機能を使いこなすようになってきています。一方で、「知育・教育系アプリ」については、最も高いのは4-6歳の子供で24.5%となりました。

子どもが情報機器で行っていること (MA)



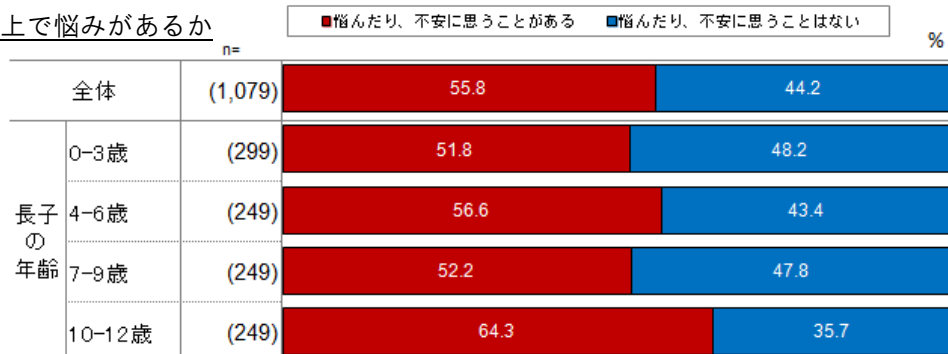
■子どもと情報機器。使い方について悩んだり、不安に思うママは 55.8%と半数以上。

子どもと情報機器の関係について、使い方などについて悩んでいることや不安に思うことがあるかを聞いたところ、半数以上のママたちが、「悩んだり、不安に思うことがある」と応えていました。

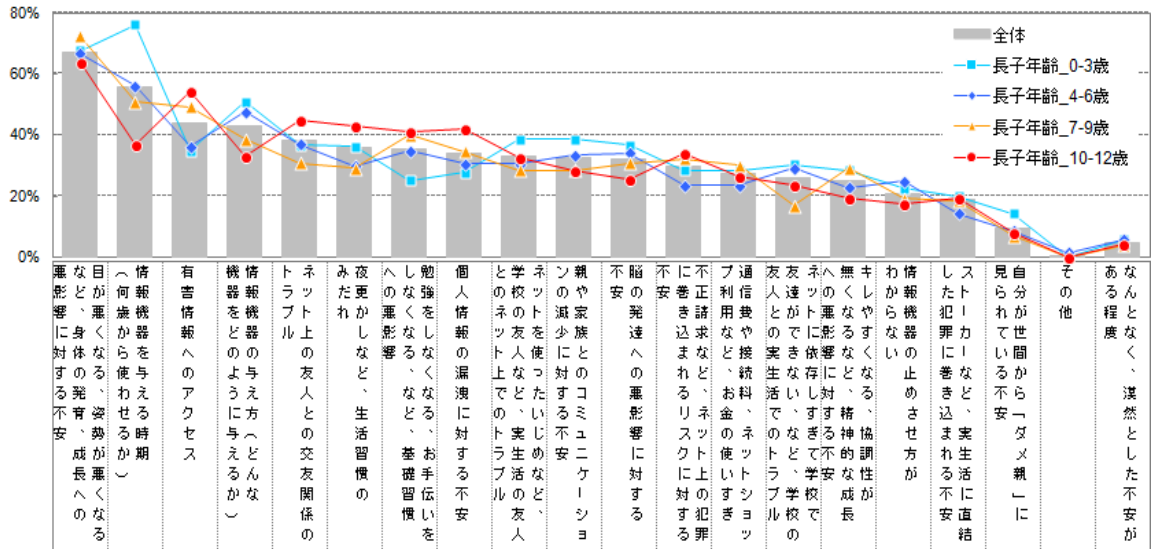
悩みの内容としては、全体では「目が悪くなる、姿勢が悪くなるなど身体の発育・成長への悪影響：67.1%」「情報機器を与える時期：55.6%」などが上位にきましたが、子どもの年齢によってママたちの悩みの内容も変わってきています。

子どもが低年齢のうち、「情報機器を与える時期」や「情報機器の与え方」といった「使わせ方」についての悩みが比較的高く、年齢が上がると、「有害情報へのアクセス」「ネット上の友人とのトラブル」となり、使用を前提としたうえでの、トラブルをどう回避するかという悩みが変わっていくようです。

子どもに情報機器与える上で悩みがあるか



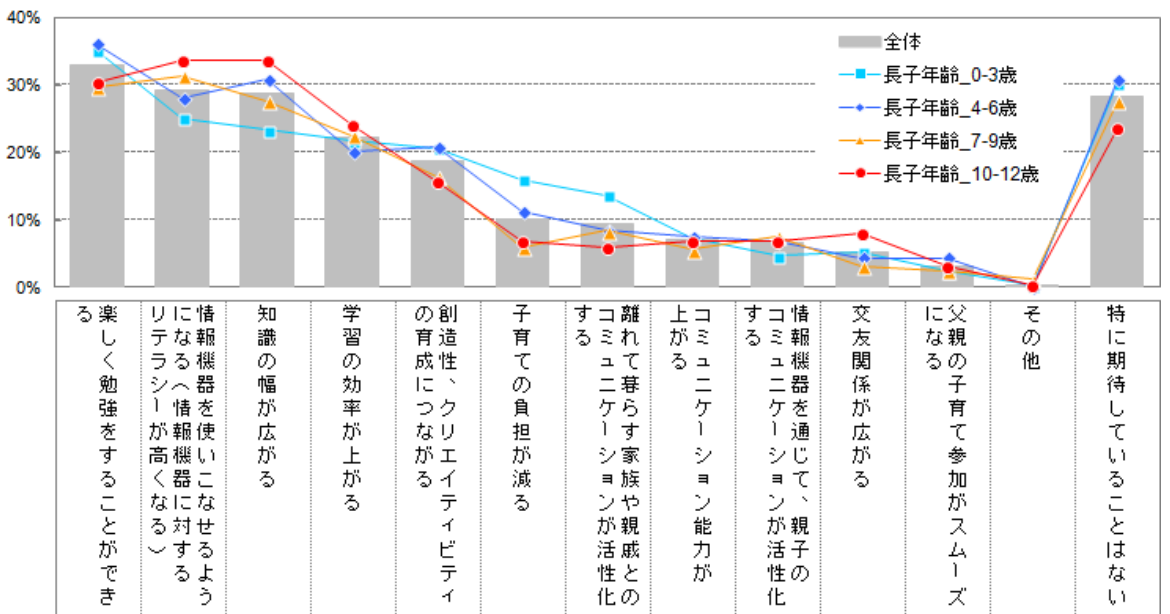
子どもに情報機器を与える上での悩みの内容 (MA)



		n=																				
		全体	67.1	55.6	43.7	42.9	38.0	35.9	35.5	33.9	32.9	32.7	32.1	29.7	27.6	25.7	25.1	20.6	18.6	9.3	0.3	4.8
長子の年齢	0-3歳	(155)	67.7	76.1	34.8	51.0	36.8	36.1	25.2	27.7	38.7	38.7	36.8	28.4	28.4	30.3	28.4	22.6	20.0	14.2	-	5.8
	4-6歳	(141)	66.7	56.0	36.2	47.5	36.9	29.8	34.8	30.5	33.3	34.0	23.4	23.4	29.1	22.7	24.8	14.2	8.5	1.4	5.7	
	7-9歳	(130)	72.3	50.8	49.2	38.5	30.8	29.2	40.0	34.6	28.5	28.5	30.8	32.3	30.0	16.9	29.2	19.2	18.5	6.9	-	3.8
	10-12歳	(160)	63.8	36.9	54.4	33.1	45.0	43.1	41.3	41.9	32.5	28.1	25.6	33.8	26.3	23.8	19.4	17.5	19.4	8.1	-	4.4

■ 子供に情報機器を与えることによる期待は、「楽しく勉強できる」「情報機器を使いこなせるようになる」「知識の幅が広がる」

子どもと情報機器の関係について、「期待していること」について聞いてみると、「楽しく勉強することができる：33.1%」「情報機器を使いこなせるようになる：29.3%」「知識の幅が広がる：28.8%」となりました。不安と同時に、使いこなすことによる期待もママたちは持っているようです。



		n=													
		全体	33.1	29.3	28.8	22.2	18.7	10.2	9.5	7.0	6.7	5.3	3.2	0.5	28.5
長子の年齢	0-3歳	(299)	35.1	25.1	23.4	21.7	20.7	16.1	13.7	7.4	4.7	5.4	2.3	0.3	30.4
	4-6歳	(249)	36.1	28.1	30.9	20.1	20.9	11.2	8.4	7.6	6.8	4.4	4.4	-	30.9
	7-9歳	(249)	29.7	31.3	27.7	22.5	16.5	6.0	8.4	5.6	7.6	3.2	2.4	1.2	27.7
	10-12歳	(249)	30.5	33.7	33.7	24.1	15.7	6.8	6.0	6.8	6.8	8.0	3.2	0.4	23.7

こそだて家族研究所

<博報堂 こそだて家族研究所とは>

晩産化・少子化、共働き世帯の増加、夫や祖父母の育児参加など、この10年で大きく変わってきた「子供のいる家族」について、研究・提案を行う専門組織。1996年より活動していたBaBUプロジェクトを発展改組し、2012年10月設立。「妊娠期から小学生の子どもを持つ家族」に関する専門知識を元に、調査、商品開発支援、広告などコミュニケーション支援、メディア開発、事業開発などを手掛ける。